

令和5年度 第10回 辻堂まちづくり会議 次第

日 時 : 2024年1月25日(木) 13:30~15:30

会 場 : 辻堂市民センター ホール

第1部

- 1 復興まちづくりイメージトレーニングについて(市都市計画課)
- 2 藤沢市未来共創セッションについて(市企画政策課)

第2部

- 1 前回会議議事録の確認について

2 議 題

(1) 部会等報告について

- ア 暮らし安心・安全部会(1/11)
- イ 辻堂交流部会(1/11)
- ウ 福祉部会(1/18)
- エ 広報委員会(1/18)

(2) 全体集会について(2/4(日)開催)

3 その他

令和6年度辻堂まちづくり会議委員改選について

4 今後の予定

- 全体集会 2月4日(日) 13時30分~ ホール
- 駅前掲示板 2月1日(木) 福祉部会2人
- 辻堂朝市 2月8日、22日(木) 福祉部会2人、交流1人
- 辻堂交流部会 2月8日(木) 9時30分から
- 暮らし安心・安全部会 2月8日(木) 13時30分から
- 広報委員会 2月15日(木) 9時30分から
- 福祉部会 2月15日(木) 13時30分から
- 第11回辻堂まちづくり会議 2月22日(木) 13時30分から
15時30分まで

以 上

令和5年度 第9回 辻堂まちづくり会議 議事録

日時	2023年12月21日 (木) 13:30 ~ 15:25			
場所	辻堂市民センター ホール			
出席者	<input checked="" type="checkbox"/> 尾崎会長 <input checked="" type="checkbox"/> 秋山副会長 <input checked="" type="checkbox"/> 齋間委員 <input type="checkbox"/> 橋本委員 <input checked="" type="checkbox"/> 鷹野委員 <input type="checkbox"/> 片桐委員 <input checked="" type="checkbox"/> 高野委員 <input checked="" type="checkbox"/> 吉田(秀)委員 <input checked="" type="checkbox"/> 堀川委員 <input checked="" type="checkbox"/> 芳山委員	<input type="checkbox"/> 小川副会長 <input checked="" type="checkbox"/> 赤塚委員 <input type="checkbox"/> 和田委員 <input checked="" type="checkbox"/> 近藤委員 <input checked="" type="checkbox"/> 大橋委員 <input checked="" type="checkbox"/> 松尾委員 <input checked="" type="checkbox"/> 村上委員 <input checked="" type="checkbox"/> 久保田委員 <input checked="" type="checkbox"/> 千葉委員	<input checked="" type="checkbox"/> 伊藤副会長 <input type="checkbox"/> 山田委員 <input checked="" type="checkbox"/> 吉田(紀)委員 <input checked="" type="checkbox"/> 秋葉委員 <input type="checkbox"/> 中野委員 <input checked="" type="checkbox"/> 黒川委員 <input checked="" type="checkbox"/> 山下委員 <input checked="" type="checkbox"/> 池本委員 <input checked="" type="checkbox"/> 鶴田委員	
事務局	<input checked="" type="checkbox"/> 横田センター長 <input checked="" type="checkbox"/> 片山	<input checked="" type="checkbox"/> 中丸主幹 <input checked="" type="checkbox"/> 古河	<input checked="" type="checkbox"/> 松本 <input checked="" type="checkbox"/> 狩野尾	<input checked="" type="checkbox"/> 新倉 <input type="checkbox"/> 宮木
議題等	1 前回会議議事録の確認について 2 議題 (1) 部会等報告について ア 暮らし安心・安全部会 (12/14) イ 辻堂交流部会 (12/7) ウ 福祉部会 (12/14) エ 広報委員会 (12/14) (2) 全体集会について (2/4 (日) 開催) (3) 令和6年度まちづくり会議について 3 その他 4 今後の予定			
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度委員名簿 ・令和5年度第8回辻堂まちづくり会議議事録 ・令和5年度第9回暮らし安心・安全部会議事録 ・自転車マナーアップ研修会報告 ・令和5年度第9回辻堂交流部会議事録 ・令和5年度第9回福祉部会議事録 ・障がいのある方とご家族のための「辻堂ミニさんぽ」実施結果について ・令和5年度第9回広報委員会議事録 ・まちづくり会議だよりレイアウト案 ・(参考) まちづくり会議だより13号 ・公民館まつりアンケート集計結果 ・2023年度公民館まつりにおける「住みよい街？」アンケート結果と課題抽出のための分析 ・辻堂まちづくり会議 令和5年度全体集会企画書 			

	<ul style="list-style-type: none"> ・辻堂まちづくり会議 令和5年度全体集会 チラシ ・辻堂地区全体集会のご案内(案) ・辻堂まちづくり会議 令和5年度全体集会 会場レイアウトイメージ ・市社協ふじさわ第62号 「辻堂ミニさんぽ」掲載ページ
傍聴者	1人

【議事録】

(進行 中丸主幹)

○開会前確認

- (1) 会議の成立に関する報告
- (2) 資料の確認
- (3) 傍聴の取扱いについて

1 前回会議議事録の確認について

資料のとおり

2 議題

(1) 部会等報告について

ア くらし安心・安全部会

赤塚委員から資料のとおり説明があった。

【意見等】

- ・辻堂片瀬線の構想はなくなったという理解でよいか。(尾崎会長)
→計画は進んでいないが、構想自体なくなったわけではない。(赤塚委員)
- ・都市計画課改訂に向けてくらしが意見を聞かれている状況か。その場合、部会としてどのような要望を出していくのか。(伊藤副会長)
→これまでは意見集約で、都市計画課から2月に説明というスケジュールである。
- ・子ども見守り事業の開催が2月1日(木)に決定した。これから各団体などに依頼する予定である。(事務局)
→どこの学校が対象か、また当日の事業はどのような内容か。(松尾委員)
→地区内小中高養護学校が対象で、地域団体は、交通安全対策協議会、青少年育成協力会、三者連携、防犯協会、社会福祉協議会、が参加予定である。辻堂センターホールに集まって、それぞれの団体の子ども見守り活動を紹介しあう会議になる。(事務局)
- ・辻堂地区の公園整備状況について、整備されていない公園が4か所、整備済み都市公園が4か所ということか。(尾崎会長)
→当初計画上未整備の4か所の公園とは別に、SSTなど新しく宅地造成された際に整備された公園4か所がカウントされている。(事務局)
- ・都市計画課に話を持って行けば、要望が実現していくものなのか。現状では、マスタープランの説明を受けているだけのようと思われる。(久保田委員)
→部会でも説明を受けたのは2回だけ。これまでの進捗は都市計画課から2月に報告してもらい、来年度マスタープランが完成していく。現在は意見集約している状況である。2月の部会で都市計画課から説明がある予定である。興味のある方は参加をお願いしたい。(事務局)

イ 交流部会

秋山部会長から資料のとおり説明があった。

【意見等】

- ・中尾先生とのフラッグ事業がなくなるとのことだが、後任の教授をこちらで選ぶことはできるのか。(尾崎会長)
→授業科目としてなくなる可能性もあるため、後任の教授がくるのか、講義の種類が消滅するのも未定な状況である。(事務局)
- ・部会長から口頭で報告のあった長久保公園ミニさんぽの参加人数を、18名に訂正する。(事務局)
- ・ニコニコロードの清掃は、体調不良のため欠席となり申し訳ない。資料に自分が参加者で記載されたままなので、削除願いたい。(秋葉委員)
- ・辻堂寫眞館は1年間のスケジュールを立てて実施しているのか。次の内容が事前に分かれば、写真の協力ができるかもしれない。(秋葉委員)
→スケジュールは立てておらず、スポット的に作成している状況。市民センターの移転に合わせて新規事業として展開してきた。次回「歴史への招待その2」で辻堂寫眞館のシリーズは終了として、別の事業を行っていきたいと考えている。(秋山部会長)
- ・海浜公園の盆踊りの実行委員会に辻堂市民センターが入っていると聞いたが、どのような役割か。内容にはあまり関与していないか。(堀川委員)
→辻堂市民センターは当て職で実行委員になっており、地元の商工会なども入っている。センターは地域への周知や問い合わせに対応するなどの協力をしている。まちづくり会議から意見があれば、それを実行委員会で紹介することは可能である。(事務局)
→過去にまちづくり会議でもブースを出したことはある。(吉田秀委員)
- ・茅ヶ崎の事例だが、茅ヶ崎の歴史を語る「語り部三橋氏」が描いたクジラ漁などの絵について、保存会が活躍し、歴史資料として保存庫に入れ、必要な時に学校に見せたりなどの運用をしているとのことであった。大石さんの資料保管の参考にしてみしてほしい。(尾崎会長)

ウ 福祉部会

池本部会長から資料のとおり説明があった。

【意見等】

- ・障がいの理解～防災を通して考える～について、参加者の歩くスピードの違いの反省部分についてだが、災害時にも同じことが起こると考えられる。これを課題として考えていくのか。(秋葉委員)
→部会の中ではそこまでの反省はしていない。(池本部会長)
→参加者の歩くスピードの違いの反省は、あくまで障がいの理解として実施した事業としての反省であり、災害時の避難行動についての反省ではない点をご理解いただきたい。(伊藤副会長)
- ・災害時に避難を助ける側としては、当事者の方の様子がわかってよかった。(秋葉委員)
- ・防災協議会として意見を言うと、資料の写真の中で見取り図があるが、参加者は館内見取り図に訪問した場所へシールを貼ってまわっていた。カードを使った避難など、障がいのある方でも工夫次第で効率的に動けるように感じた。(吉田秀委員)
- ・避難所の各部屋はどのような使われ方をするのか、HPで紹介しておけばあらかじめ誰でも確認できるため、事務局と調整している状況である。(吉田秀委員)
- ・簡易トイレやベッドなどは、防災協議会で事前に組み立てて準備しておいた。簡易ベットに寝転んだ方がいたが、「安心できる避難先があるという確認ができたというだけでも今日来てよかった」という意見を、その方のご家族からいただいた。(吉田秀委員)
- ・障がいのある方との直接のコミュニケーションは取りづらく、付き添いの方を通す形となった。(伊藤副会長)
- ・結果としてお互い知りたいことを知れたという点は大きなメリットである。一緒に何

かをやってみるといのは、防災に限らず大事なことで再認識した。(山下委員)

エ 広報委員会

久保田委員長から資料のとおり説明があった。

- ・掲示板の装飾作成等で、外部から協力してもらっている方がいる点について承認をいただきたい。メンバーは、まちづくり和田委員、桜井氏、宮永氏で活動している。(久保田委員長)
- 会場異議等なし

【意見等】

なし

(2) 全体集会について (2/4 (日) 開催)

広報委員会議事確認に合わせて久保田委員長から説明があった。

(3) 令和6年度まちづくり会議について

事務局中丸主幹から、資料のとおり説明があった。

- ・「要領改正」案の承認、委員選考委員会の設置の決定、選考委員会メンバーについて事務局に一任、「令和6年度辻堂地区郷土づくり推進会議委員選考委員会、公募委員募集及び選考に関する要領」案の承認。以上4点について承認をいただいた。

【意見等】

- ・10代の子どもがまちづくり会議に参加できないか、ということを実際に検討していきたい。意見をいただければと思う。(尾崎会長)
- 若い人の意見を取り入れるのはいいことだと思う。(伊藤副会長)
- 中心になって頑張ってくれる委員がいないと、子ども回覧板と同じような結果になることが予想される。(斎間委員)
- そうした意見はとても重要で、それはすなわち現在のまちづくり会議の体制では受け入れが難しいと感じる。何かの工夫なしには進めていけない。(尾崎会長)
- このまちづくり会議メンバーと同じ立ち位置で入ってもらおうという理解で良いか。平日の日中では厳しいと感じる。もし迎え入れるのであれば、各部会に1人でも入ってもらい、若い人の意見をもらえるようにしたい。(近藤委員)
- 開催時間についての課題はおっしゃるとおりである。市民センターとも調整が必要だが、夕方以降の開催にするなど、考慮しなければならない。(尾崎会長)
- ・各部会で持ち帰り、議論してもらいたい。今回は間に合わなくても、次回につながっていくと思う。(尾崎会長)

3 その他

(1) 選挙の立会人について、事務局中丸からお願いした。

各団体から選出をお願いしている。まちづくり会議からもご協力いただきたい。

2/14 吉田秀委員、2/17 大橋委員 に決定。

(2) 市社協ふじさわについて、村上委員から紹介があった。

4 今後の予定

次第のとおり

- ・朝市は12/28も開催するため追記して、買い物に来てください。

以上

令和5年度 第10回 くらし安心・安全部会 議事録

(開催日時) 2024年(令和6年)1月11日(木) 13:30~15:10

(開催場所) 辻堂市民センター 地区防災拠点本部室

(出席者) 委員: 山田部会長、赤塚委員、齋間委員、小川委員、秋葉委員、鷹野委員
事務局: 中丸主幹、新倉

(議題等) 1 今後の取組について

- (1) 子どもの見守り事業について
- (2) 昭和通りの道路拡幅について
- (3) 交通事故マップについて
- (4) 辻堂地区防災講演会について
- (5) 令和6年度くらし安心安全部会事業計画について

2 その他

〈議題〉

1 今後の取組について

(1) 子どもの見守り事業について

・前回の部会の後、学校との調整が整い、2月1日(木)午前10時から正午までの予定で、実施することになった旨、事務局から説明を行った。次の点について順次決定した。

司会者 : 山田部会長

開会あいさつ : 尾崎会長

閉会あいさつ : 山田部会長(司会の流れで)

会場準備 : 部会メンバー中心で準備(午前9時20分 3階ホール前集合)

傍聴者の取り扱いはしないが、関係団体で参加したいメンバーがいる場合は、団体での調整をお願いする。

まちづくり会議出席者については、会長・副会長を除き、各部会2~3名の参加とする。

(2) 昭和通りの道路拡幅について

・アンケート調査の配布方法について、検討を行った。

2月2日に開催される自治連の役員会で、関係する自治会にアンケート調査の依頼を行うことについて説明したのち、該当自治会に対し、個別に依頼することとなった。

(3) 交通事故マップについて

・交通事故マップの配布枚数等について検討を行った結果、次のとおり決定した。

ア. 配布枚数

地区内小・中・高・大学 : 3枚

地区内幼稚園・保育園 : 1枚

自治会・町内会 : 掲示板の設置個所数に応じて配布。

イ. 配布時期

2月

ウ. 作成枚数

各350枚（6年間の全事故・人に関わる事故の2種類）

(4) 辻堂地区防災講演会について

- ・防災協議会での検討結果を説明。次の点について決定した。
会場準備受付：赤塚委員、秋葉委員、斎間委員、鷹野委員

【説明内容】

日時：2024年3月2日（土）午後2時から（午後1時30分開場）

場所：辻堂市民センター 3階ホール

講師：立木 茂雄 氏（同志社大学 社会学部社会学科）

内容：避難行動要支援者における個別避難計画について

(5) 令和6年度くらし安心安全部会事業計画について

- ・令和5年度くらし安心安全部会事業報告をもとに次回以降の部会で引き続き検討することとなった。

【意見等】

- ・藤沢厚木線の沿線地域への意見交換会の議事録の提出を求めることとなった。

2 その他

- ・まちづくりだよりに掲載する部会報告について検討を行った。

表題：～交通事故の防止に取り組む～に変更

自転車安全利用五則の①「左側を通行」に変更

③「夜間はライトを点灯」に変更

以上のとおり修正を行った。

- ・次回全体会議には、集合写真を撮るため、ポロシャツを着用していただくよう依頼した。

以上

【次回部会日程】

日時：2024年(令和6年)2月8日(木)

13:30～15:00

子ども見守り活動 アンケート調査結果 一覧表

令和5年度

2024.2.1

団体名	辻堂小学校	浜見小学校	高砂小学校	八松小学校	湘洋中学校	高浜中学校	白浜養護学校	湘南工科大学附属高校
実施中の活動	<ul style="list-style-type: none"> 4月:新入生の下校指導 7月・9月・1月:職員による交通指導 不審者・風水害時を想定した一斉下校及び下校指導 	<ul style="list-style-type: none"> 学期初め(4月・9月・1月)に3日間、登校時間に通学路で安全指導を実施 年度初めの新入生を対象とした下校指導(地域ごとに職員が付き添い、通学路の確認や歩き方等の指導) 悪天候や不審者への対応による登下校指導 	<ul style="list-style-type: none"> 不審者情報等がある時のパトロール実施と下校指導 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期4月末、2学期9月に一斉下校訓練を行っている。高学年児童が低学年を見守りながら下校する。 荒天時や緊急時の登下校のも守り。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めや夏休み明けなどに学校付近の通学路に教員を配置し、登校指導にあたる。 不登校生徒への支援については、家庭訪問や校内別室登校支援など生徒の実態に応じて対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝、登校時間(8:00~8:20)に正門前の横断歩道において職員による生徒の横断及び通行人への声掛け 不審者等が出没した際の生徒の登下校時のパトロール(職員による) 	<ul style="list-style-type: none"> 登下校はスクールバスか保護者の送迎となっていますので、見守り活動は行っていない。 不登校児童生徒の支援として放課後登校を実施。(週1回) 	<ul style="list-style-type: none"> 登下校時の通学路での声かけ、誘導(複数個所にて実施) 生活指導によるパトロール(不定期実施)
他団体との連携活動	<ul style="list-style-type: none"> おはようボランティアによる見守り 	<ul style="list-style-type: none"> おはようボランティアによる登校時の見守り、声かけ。(PTA活動としてボランティアを募集している) PTA校外委員主催道路横断指導、声掛け スクールガードリーダーによる朝と下校時の声掛け、交通指導 	<ul style="list-style-type: none"> 登下校の見守り(おはようボランティア、スクールサポーター、PTA、スクールガードリーダー) 新入生4月下校見守り (CS委員を通じて)PTA危険個所マップ作製・配布 見守り活動協力依頼(PTAより) 	<ul style="list-style-type: none"> PTA登下校見守りボランティア活動 おはようボランティアによる朝の登校時の見守り スクールガードリーダーによる朝と下校時の見守りと交通安全指導 	<ul style="list-style-type: none"> PTA校外指導委員会との情報交換。 学校運営協議会において、不登校生徒支援について検討している。 			特になし
その他課題	<ul style="list-style-type: none"> おはようボランティアの不足(高齢化等) 通学路の歩道が児童数にあっていないため登下校時児童が道路に溢れる。(時差登下校は、習い事の時間や兄弟姉妹と一緒に帰る事など諸事情から行っていない。) 	<ul style="list-style-type: none"> おはようボランティアの高齢化による7担い手不足。 職員の登校指導については、児童の登校の様子を把握し、指導するためにも必要であるが、学校内の指導が手薄になってしまう。 学校周辺の朝の時間帯の駐車や車のスピードが気になる。 悪天候や不審者への対応等、突発的な登下校の見守りが必要な際の職員の人員不足。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ対応や職員配置の関係で校外での指導に出向くことが難しい期間が続いている。 今後、統合型コミュニティスクールとなるため、それを踏まえて活動が行われるとよいと思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> おはようボランティアさんの高齢化と新たな方への募集 教職員の朝の見守りは難しい 正門前に保護者が迎えに来て道路に駐車する時があり、児童の安全な下校の妨げになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学区が辻堂地区と鶴沼地区に分かれているが、青少協・交対協など、辻堂地区となるため、鶴沼地区の地域の方々との連携がとりづらい。(情報が入りづらい) 	<ul style="list-style-type: none"> 度々、不審者(露出)が登校時間帯に出没する。 正門前の道路の街路樹によって見通しが悪い箇所がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 登下校時の自転車通学者への指導(ルール乗車時のマナー) 通学路の使用にあたって、人数増によるマナー遵守の難しさ 学校用地に不審者の出没 	

子ども見守り活動 アンケート調査結果 一覧表

団体名	防犯協会	交通安全対策協議会	青少年育成協力会	青少年指導員	社会福祉協議会	辻堂西地区民生・児童委員協議会	辻堂東地区民生・児童委員協議会	高浜地域子ども支援会議	ネットワーク湘南童夢
実施中の活動	<ul style="list-style-type: none"> 毎月10日(夕方)、27日(昼)、第3水曜日(昼)に青パト車で地区内巡回 自治会・町内会毎に月1回程度、自治会・町内会の周辺地域のパトロールを実施 10月16日、児童の下校時間に地区内定点における子どもの見守り わんわんパトロールを実施し、愛犬のお散歩とともに地区内をパトロールしていただいている 不審者情報があった場合に臨時でパトロールを実施 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1、15日と4月、9月の交通安全週間中(3日間)に児童の登校時間中に定点での街頭指導及び青パト車で地区内巡回 四季に駅前街頭キャンペーンを実施 年3回、ヨークフーズ(辻堂太平台店)駐輪場や高砂小学校校庭及びなぎさモール辻堂で自転車マナーアップキャンペーンを実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 祭りに併せて夜間パトロールを実施 公民館まつりにて啓発活動を実施 夏休み前に学校等と情報交換を実施 健全育成を目的に講演会を開催 	<ul style="list-style-type: none"> 月2回子どもが集まりやすい場所を中心にパトロールを実施 夏と冬の2回、藤沢駅周辺での街頭指導(今年度は、夏は藤沢駅、冬は辻堂駅で実施) 祭りに併せて夜間パトロールを実施 年2回青少年を取り巻く社会環境調査の実施 中学校卒業式の時間中にパトロールを実施 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校児童支援事業として「かけはし」を実施している。この「かけはし」は、不登校等の子どもを持つ家族が地域の中で気軽に語り合える場所を提供することで、ご家族の悩みや不安等の軽減に資することを目的としており、辻堂地区にお住まいの不登校等の子どもを持つご家族の方(不登校等の児童・生徒も利用可)を対象としている。 	<ul style="list-style-type: none"> 主任児童委員の連絡会議での情報を、各担当委員と連携し、見守り活動を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間の計画は、特にありませんが、主任児童委員連絡会議においての情報によって、児童部会が必要な際連携し、見守り活動を実施している。 小中学校の先生、特に校長・教頭・生活指導担当との話し合いを年1~2回持ち、学童の問題点など協力できるところは、積極的に行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 子供の健全育成を目的に辻堂地区青少年育成協力会とネットワーク湘南童夢と共催で年1回講演会を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 子供の健全育成を目的に辻堂地区青少年育成協力会と高浜地域子ども支援会議と共催で年1回講演会を実施
他団体との連携活動		<ul style="list-style-type: none"> まちづくり会議と連携し自転車マナーアップ研修会を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時に青少年指導員へ連絡し、パトロールを実施 	<ul style="list-style-type: none"> 公民館・青少年会館等と連携して青少年の健全育成の事業を実施 		<ul style="list-style-type: none"> 各学校等を訪問し、様子を確認。 青少年育成協力会や高浜地域子ども支援会議の団体活動に委員として参加。 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会町内会における子ども主体の行事(ハロウィン、餅つき大会等)に参加し、地域の子どもの様子を視察し、参加する保護者との交流を行っている。 夜間パトロールへの参加も実施 		
その他課題	<ul style="list-style-type: none"> 他団体との連携がとれていない 役員の担い手がいない 	<ul style="list-style-type: none"> 他団体との連携がとれていない 役員の担い手がいない 	<ul style="list-style-type: none"> 他団体との連携がとれていない 緊急時の連絡方法の確立が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 不審者情報等の共有は、学校・PTAや防災速報等でだいぶできるようになったが、その後の経過があるとだいぶ良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 「かけはし」の利用者が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが抱えている問題の現状把握が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員児童委員は、地域の見守り役としての役目が重要と考えています。しかし、自治会町内会が組織的にできていない場合、地域の見守りも難しい面があります。子どもたちの安全な生活、安心した成長を地域の皆さんが、それぞれの立場から見守っていただきたいと思っています。 		

子ども見守り活動 アンケート調査結果 一覧表

団体名	湘洋中 PTA	高浜中PTA	浜見小PTA	高砂小PTA	八松小PTA	辻堂小PTA
実施中の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・(コロナ禍以降、組織的な活動を見合わせており、今後について検討中です。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時の正門前での横断見守り 	<ul style="list-style-type: none"> ・春・秋の交通安全指導、街頭キャンペーン(交通) ・通学路の確認・点検 ・校区内のパトロール ・おはようボランティア 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月と9月に校門前・歩道橋下で横断歩道交通指導、不審者発生時に情報発信 ・5月懇親会またはアンケート実施し危険箇所を調査、危険箇所安全マップを作製し学校に掲示と家庭に配布。 ・おはようボランティア、こども110番の家募集、自転車パトロール募集 	<ul style="list-style-type: none"> PTA校内委員より協力いただける保護者を募集し、年4回始業式明けから3日間とGW明けの3日間、登下校時間に合わせて30分程度見守り、声掛けを実施。 ①あおば前の歩道橋 ②事務キチ南側 ③熊の森信号 ④チョコビン交差点 ⑤PCデポと事務キチの間の5か所にて見守り 	<ul style="list-style-type: none"> ・辻堂小校外委員会では、毎月5日、25日に太平台・元町、東海岸・SSTの4地区全10ポイントで朝の登校時に旗振り活動を行っています。 ・春・秋の交通安全週間は、地域協力の方々とは期間を分けて旗振りを行っています。 ・新一年生の下校時は、本町ローソン前の横断歩道にて見守りを4日間行っています。
他団体との連携活動	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全対策協議会、青少年育成協力会、青少年指導員、ネットワーク湘南堂夢の各会議等に参加 ・湘洋中学校学校運営協議会に代表が委員となり、不登校支援等、子どもたちをとりまく課題について協議している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域のおはようボランティアとの協力 ・交通安全週間での警察との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全対策協議会の会議・パトロールに参加。 		
その他課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で止まっている活動を今後どのようにしていくか辻堂地区と鶴沼地区との連携 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域ボランティア活動の担い手の高齢化と人数減をフォローするためPTAが担っている。ただ、そのPTAも加入者が減っていく傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・以前募集し実施していた保護者のパトロール(各自持っていた腕章の廃止による)が廃止となった為、違ったかたちでの保護者参加の安全活動の検討が必要(委員と保護者、地域との協力で行うパトロールや交通指導、安全教室等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学区をまたいでいるため、明治・辻堂両センターに役員を配置するため、役員の担い手募集にPTAの方々に大きく負担がかかっている 	

令和5年度 第10回 辻堂交流部会 議事録

(開催日時) 2024年(令和6年)1月11日(木) 9時30分～12時20分

(開催場所) 辻堂市民センター 第1談話室

(出席者) 1 委員 …秋山部会長、吉田(紀)委員、吉田(秀)委員、芳山委員、久保田委員、堀川委員、千葉委員、片桐委員、鶴田委員
2 事務局 …中丸主幹、片山、狩野尾

(議題等) 1 【最終回】湘南工科大学授業参加協力
2 第6回辻堂ストリートギャラリープロジェクト「恋する辻堂」について
3 辻堂寫眞館「歴史への招待 その2」について
4 【検討】次回辻堂さんぽ実施について
5 今後実施事業の振り返り及び令和6, 7年度実施予定について
6 その他

1 【最終回】湘南工科大学授業参加協力

事業として最後になる次回の参加者を決定した。

日時：1月22日(月) 10時30分～

参加者：秋山部会長、堀川委員、千葉委員、久保田委員

2 第6回辻堂ストリートギャラリープロジェクト「恋する辻堂」について

これから写真募集をしていくにあたり、テーマの再確認を行った。

(意見等)

- ・「辻堂の中」にある自分の恋するもの・好きなものに限定するのはどうか。
→「辻堂の中」に限定する。
- ・こいには様々な解釈があるので、「恋する辻堂」ではなく、「こい辻堂」にするのはどうか。
→今回は「恋」をテーマとしている。
- ・掲出は現在のメンバーで行うのか。
→任期後の日程となるが、お願いしたい。4月9日(火)の午前中に掲出予定。
- ・フラッグに、作者の意図などを載せられないか。
→旗の下のほうに、タイトルを入れられるかどうか、業者に確認する。
- ・二次元コードを掲示した紙を貼り、フラッグの詳細が書かれたサイトをその場で見られるようにするのはどうか。
→前回は湘南ニコニコロード入口の車止めや、広場の看板に設置しており、今回も設置する。

3 辻堂寫眞館「歴史への招待 その2」について

貼替作業：2月1日（木）「子ども見守り活動意見交換会」後に実施。

作業時間の目安は、30～40分程度。

最終回特別企画として提案のあった「ミニハイク&トークショー」について、検討した。

提案の内容：今回の展示で紹介している場所に歩いて行った後、写真を提供して下さった方から当時の話をうかがう。辻堂駅集合で辻堂市民の家解散。

(意見等)

- ・辻堂市民の家は辻堂駅から距離があるので、仲町公民館や駅前公民館がよいのではないかと。
- ・ミニハイクなので歩く意欲のある方が応募すると思う。チラシには、距離や時間を示すべき。歩きたい方がくるのならば、多少距離があってもよい。
- ・トークショーかミニハイクか、どちらかにしたほうがよい。
- ・トークショーを開催するならば、目的や内容を明確にするべき。
- ・自分が応募する立場だったら、トークショーにくる人が知りたい。
- ・良い企画なのでもう少し内容を話し合いたいが、日が迫っているので、今年度はまちづくり会議委員のみを対象として、試しに歩いてみるのはどうか。
- ・辻堂を散策する企画への第1歩の企画とするのはどうか。
- ・歩きながら話を聞くと頭にすんなり入ってくるので、歩きながらの企画のほうがよい。

→今回は一般の方ではなく、まちづくり会議委員を対象として実施し、来年度企画の参考にする。

実施の候補日は、3月10日（日）、17日（日）、24（日）のどこか。

1月の全体会議でお知らせし、2月の全体会議で参加者を募る。

4 【検討】 次回辻堂さんぽ実施について

委員の改選があり4月に部会がなく、準備期間が少ないが、春の実施はどうか。

(意見等)

- ・まだ秋開催の結果も出ていないので、これまでの振り返りをして改めて企画を練るべき。
- R6春開催はなしとする。

5 今後実施事業の振り返り及び令和6、7年度実施予定について

今期の実施事業の一覧を元に、次のとおり意見交換した。

(意見等)

- ・イベントはあくまでも手段なので、目的も記載して、それに沿って振り返りをするべき。
- 次回も引き続き振り返りと次期の事業案を話し合うので、資料に記載する。

◎各事業の振り返り

【辻堂朝市】

- ・商店会連合会ともっと密に連携をはかりたかった。
- ・辻堂内の他の場所でも開催できないか、との意見があった。
- ・藤稔（ふじみのり）のような季節ものの販売をチラシに掲載できればと思ったが、入荷が不定期で掲載は難しかった。
- ・朝市に来られた方に次回のチラシを渡せたのはよかった。
- ・お花の販売はないのか、という意見があった。
- ・地元のを販売する地区内の他の朝市等を紹介することでも、地産地消を促し郷土愛を育むという目的は達成できるのではないか。
- ・ココファン藤沢SSTで実施しているお薬相談などを市民センターでも実施できたら良い。

【みんなで美化キャンペーン】

- ・7月の開催は暑すぎるので、時期を変えたほうがよいとの意見があった。
→高浜中の三者面談に合わせて実施することで、子どもたちの参加を促すねらいがあった。
→部活があるので中学生の参加は難しくなるかもしれないが、夏の開催は暑い時期を避けて土日開催にして、花植えを実施し小学生の参加を促してはどうか。
- ・もっと子どもたちに参加してほしい。
- ・他の場所でも実施したほうがよい。
- ・冬の実施のみにして、開催場所を増やすのはどうか。
- ・地域の様々な人が集まって美化活動という共同作業を通じて交流を図ることが目的であるため、市の除草と調整しながら、花植えのない夏も開催する必要があるのかは検討すべき。

【辻堂歴史物語】

- ・講師の体調不良で実施できなかった。過去の記録が残っているはずなので、それが手軽に見られるようにできないか。
- ・他の語り部を探す必要もあるのではないか。
- ・過去のまちづくり会議だよりを改めてみると、歴史の伝承について重視してきたことがわかるので、継続していきたい。

【辻堂さんぽ】

- ・以前は、高齢者と子どもたちが決まった日に集まって、一緒にさんぽする事業を実施していた。
- ・企画の目的は健康維持・増進でよいか。コミュニケーションに重きをおくか。

- ・景品目的であっても、協賛企業に人々が訪れることで地域の再認識という目的が果たせる。
- ・今期から始めたクイズが大好評だった。

【湘南ニコニコロードストリートギャラリープロジェクト】

- ・企画当初は辻堂のまちを文化の薫るまちにしたいという想いで検討を始めたもので、現在は若者のアイデアをまちづくりに活かすことが目的のようになっているが、湘南工科大学との連携が必須というわけではない。授業参加協力が終わる来期に向け、目的を整理するべき。
- ・病院など、地域の他の団体や企業とコラボするのはどうか。
- ・フラッグについては、一区切りついたという認識。
- ・藤沢アートスペースとのコラボはどうか。

続きは次回の部会に持ち越す。

6 その他

(1) 八松小まち歩きの事前打ち合わせについて

秋山部会長に参加いただく打ち合わせについて、日時等再確認した。

(2) 辻堂まちづくり会議だより部会イチ押し事業原稿について

千葉委員に寄稿いただいた原稿を校正した。

(意見等)

- ・辻堂に関心を持ってもらうことが交流部会の目的のひとつなので、企画にかかわった団体や学校、企業を掲載するべきではないか。
- ・「来年も続けていきたい」という記載は次期も実施するかが確定しているわけではないので、避けたほうがいいのではないか。
→協力者、参加者への感謝を結びにする。
- ・文字数を考慮し見送ってはいたが、イベント名は正式名称で書きたい。
→今後紙面に落とし込むために文字数を削ることはやむなしとし、まずは記載したい内容をすべて挙げる。

→提出期限も近いので、事務局で意見を反映した文章を取り急ぎ作成し、LINEで確認いただくこととした。

(3) 辻堂朝市について

2月8日(木)：千葉委員が担当

2月22日(木)：堀川委員が担当

以上

【次回部会日程】

日時：2024年2月8日(木)

9時半～11時半頃

会場：辻堂市民センター 第1談話室

令和5年度 第10回 辻堂まちづくり会議福祉部会 議事録

(開催日時) 2024年(令和6年)1月18日(木) 13:30~14:50

(開催場所) 辻堂市民センター 地区防災拠点本部室

(出席者) 大橋委員、松尾委員、黒川委員、村上委員、池本委員、山下委員、伊藤委員、近藤委員

(事務局) 辻堂市民センター 横田 古河(敬称略)

地域共生社会推進室 佐藤 渡邊(敬称略)

藤沢市社会福祉協議会 小野(敬称略)

(議題等) 1. ヤングケアラー研修会について

2. 来年度の取り組みについて

3. その他

〈議題〉

1. ヤングケアラー研修会について

- ・別添資料のとおり事務局から実施概要を説明
- ・役割分担については次回福祉部会で協議する。

【決定事項】

- ・周知先予定の地区内の保育園、児童館、子どもの家、放課後児童クラブについては村上委員、伊藤委員、松尾委員、事務局で手分けをしてチラシを持ち込む。(チラシは1か所3~5枚)
- ・地区内の小・中・養護学校へのチラシの持込み部数は教員数プラス掲示・配付用として数枚

2. 来年度の取り組みについて

- ・別添資料のとおり今年度の事業をふりかえる意見交換を行う。

〈意見等〉

- ・ヤングケアラーに関することと障がいの理解については今後も継続していきたい。
- ・学生との交流ができる世代間交流事業や白浜養護学校に対する支援も続けていきたい。
- ・辻堂さんぽの「ミニさんぽ」はいい事業だと思う。
- ・絵ほん語り公演は継続するのであれば事業名を再検討したほうがいい。
- ・認知症フレンドリーキッズ授業は数年越しの懸案で実施できたので今年度限りでいいと思う。
- ・「かぐやびより」上映会は来年度同じ映画の上映はしないので、実施したとしても内容が変わる。
- ・「福祉フェス」の継続の可否は次年度の委員に検討していただく。
- ・福祉部会として何を目的・課題として、何を検討・解決していくべきなのかももう一度整理して、次年度の委員に引継ぎをするべき。

- ・事業を実施するだけでなく、部会の中で日々の生活上の困りごとや気づきについて意見交換することも大事
- ・今年度「障がいの理解」で取上げた「防災を通して考える」は、次年度は別の角度で取組んでいかれるよう検討していきたい。

3. その他

○令和5年度 精神保健福祉講演会

「支える人をひとりにしない」～ケアを担う子どもとその家族で何が起きているのか～
について別添資料のとおり事務局から周知

○伊藤委員から「まちづくり会議だより」について、イチオシ事業の他部会の報告及び福祉部会からは「障がいの理解～防災を通して考える～」の記事を掲載することに決定した旨の報告があった。

○駅前掲示板・朝市の担当者を決定した。

- ・駅前掲示板：2月 1日…池本委員
- ・朝市： 2月 8日…大橋委員、池本委員
22日…大橋委員、近藤委員

○事務局から広報ふじさわ1月25日号に、郷土づくり推進会議の公募委員の募集記事が掲載されるが、ご確認いただいたうえで継続及びお知り合いの方への呼びかけを依頼

○事務局から広報ふじさわ1月25日号に、2月10日（土）に開催される「ケアラー支援条例制定に向けたシンポジウム」の掲載される記事について周知

以 上

次回部会：2024年2月15日（木）13時30分～ 地区防災拠点本部室

参加無料

研修会

回覧

ヤングケアラーについて考える



地域の様々な方が集い、ヤングケアラーについて知り、共に考える研修会です

～ヤングケアラーはこんな子どもたちです～

家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どもをいいます。

※一般社団法人日本ケアラー連盟による定義

2024年3月3日（日）14時～16時15分（13時30分受付開始）
辻堂市民センター 3階ホールにて

対象者

藤沢市辻堂地区に在住・在勤の方 40人（先着順）

内容

<第1部> 講演会

①ヤングケアラーの“きほん”

（社福）神奈川県社会福祉協議会
ケアラー支援専門員 中島 契恵子 氏

②ヤングケアラーを知ろう<当事者の立場から、伝えたいこと>
ひとりやないで！～*統合失調症の親を持つ子向けの広場*～
代表 樺山 枝里 氏

<第2部> 振り返り

グループに分かれて、参加者同士で講演会を聞いての感想を、自由に語り合う時間です。

申込方法

2月5日(月)～2月26日(月)までに

電子申請にて（右記二次元コードから）

二次元
コード

※電子申請が難しい方はご連絡ください。

○お車でのご来場はご遠慮ください。

○イベントの様子を写真撮影させていただきます。

○いただいた個人情報の本事業の目的以外に使用することはありません。



【主催】辻堂まちづくり会議

【問合せ】辻堂市民センター 地域づくり担当

電話 (0466) 34-8661 FAX (0466) 34-4187

日時	2024年1月18日(木) 9:30 ~ 11:30
場所	辻堂市民センター 地区防災拠点本部室
出席者	<input checked="" type="checkbox"/> 久保田委員長 <input checked="" type="checkbox"/> 尾崎会長 <input checked="" type="checkbox"/> 小川副会長 <input checked="" type="checkbox"/> 伊藤副会長 <input checked="" type="checkbox"/> 秋山副会長
事務局	<input checked="" type="checkbox"/> 中丸主幹 <input checked="" type="checkbox"/> 松本 <input checked="" type="checkbox"/> 宮木
議題等	1 令和5年度広報委員会事業予定の確認 (1) 社会貢献活動辻堂発見リポーター全体集会のプレ発表、レポート発表 (2) 辻堂地区全体集会について (3) シン辻堂カルタについて (4) まちづくり会議だよりについて 2 その他

議事録

1 令和5年度広報委員会事業予定の確認

(1) 社会貢献活動辻堂発見リポーター全体集会のプレ発表、レポート発表

- ・実習生の2人が全体集会のプレ発表、レポート発表をおこなった。

【意見等】

- ・発表時の言葉遣いに気を付けて、工夫してゆっくりしゃべってほしい。
- ・字体を統一してほしい。
- ・2人が別々に発表しているが、1つにまとめて発表してほしい。
- ・具体的な事例、活動の成果を発表してほしい。
- ・自分たちの目標なのか、課題や感じた事を発表するのか。

(2) 辻堂地区全体集会について

- ・小川副会長から、アンケート集計についての説明があった。また事務局から実施要領等の説明を行った。

【意見等】

- ・アンケート結果からテーマを絞り、来年度に向けての課題を見つける。
- ・テーマを「道が狭い」「渋滞」「歩行者・自転車のマナーについて」の3つに絞り、参加者の希望でグループ分けを行う。
- ・ファシリテーターは、広報委員会の5名と吉田(秀)さんに決定し、他の委員については全体会議で希望をとり、その中から書記を決定する。
- ・1グループは5~6人にして、グループ毎に防災マップをテーブルに置く。
- ・解決策に重点をおいた話し合いになるようにする。

(3) シン辻堂カルタについて

- ・事務局から今後の作業の確認をおこなった。

【意見等】

- ・HPにアップする時は、「辻堂かるた」があることと、今回「シン辻堂かるた」を作成するに至った経緯の記載があったほうがよい。
- ・絵札の薄いもの濃くしたほうがよい。
→尾崎会長、小川副会長が対応してみる。
- ・読み札はパソコンで入力したほうが良い。
→事務局で対応する。

(4) まちづくり会議だよりについて

- ・事務局から印刷業者が決定した報告と、今後の作業確認をおこなった。

【意見等】

- ・一校が全体会議に間に合うか。
→業者に確認する。
- ・久保田委員長から、交流部会の記事に協力していただいた企業名を掲載する予定だが、まちづくり会議だよりは、協力していただいた方へのお礼の場所と考えてよいのか。
- ・今年度事業にかかわっていただいた個人、団体に対するお礼を入れてもよいと思う。
→3面の下に掲載するようにする。

【今後の予定】

- 1月全体会議 1月25日（木） 13：30～／ホール
- 次回委員会 2月15日（木） 9：30～／拠点本部室

以 上

駅前掲示板特集

4面

写真

記事

会長あいさつ
(尾崎会長)

フェイス
ブック案内
(久保田
委員長)

辻堂まちづくり会議委員
(事務局)

辻堂ドットコム
(事務局)

1面

表紙タイトル
辻堂まちづくり会議
(事務局)

全体集会
(小川副会長)

交流部会 一押し！事業

2面

記事

写真①

写真②

写真③

暮らし安心安全部会 一押し！事業

3面

辻堂地区
の
交通事故
マップ

記事

安全利用五
則

福祉部会 一押し！事業

記事

写真①

写真③

写真②

事業
一覧
(事務局)

まちづくり
会議とは
(事務局)

令和5年度 辻堂まちづくり会議全体集会 実施要領

辻堂の道 安全ですか？・安心ですか？

1 概要

目的	辻堂まちづくり会議について周知を図るとともに活動内容に興味を持っていただく。また、会議の場に加わることで辻堂への誇りや愛着を高めてもらい、活動への参加のきっかけを作る。
日にち	2024年2月4日（日）午後1時30分～3時30分 （午後1時開場）
会場	辻堂市民センター3階ホール
開催方法	現地集合
定員	会場50人(先着順)
参加費	無料
内容	第1部 辻堂まちづくり会議の取組 第2部 辻堂の道
その他	手話・保育あり(申込制)

2 タイムテーブル

12:00	役員集合、会場設営開始 （別紙1 会場レイアウト を参照）
13:00	開 場
13:30	主催者あいさつ（尾崎会長 3分）
13:33	【第1部】辻堂まちづくり会議の取組 まちづくり会議・社会貢献活動の概要説明（伊藤副会長 7分）
13:40	●湘南工科大学 社会貢献活動への協力 ・社会貢献活動報告（防災）（学生 5分） ・社会貢献活動報告（広報）（学生 5分）
13:50	●辻堂年表、シンカルタ、アンケートのパネル紹介 グループの委員2～3名でグループ内の一般参加者を連れて説明していく。 （別紙2 委員グループ を参照）
14:05	【第2部】「辻堂の道」について 概要説明（小川副会長 3分） ●小グループで話し合い
15:00	●グループ発表 （各グループ3分+入替1分） × 6 = 24分
15:30	閉会あいさつ（秋山副会長 5分）

3 内容

(1) 【第1部】辻堂まちづくり会議の取組

- ・伊藤副会長から、冒頭で辻堂まちづくり会議の取組・事業紹介と、その一環としての社会貢献活動の受入説明をする。
- ・湘南工科大学の学生がパワーポイントで発表する。
- ・司会の久保田広報委員長から、各パネルの簡単な説明。グループ毎にパネルを回って説明。
 A、B班 パネル①→②→③
 C、D班 パネル②→③→①
 E、F班 パネル③→①→②

(2) 【第2部】「辻堂の道」について

- ・小川副会長から、冒頭で話し合い～発表までの流れの説明をする。
- ・第2部の詳細スケジュール例
 14:05～14:10 小川副会長からの冒頭説明。グループ内自己紹介。
 14:10～14:15 自分の意見を付箋に書く。(様子を見ながら時間調整)
 14:15～14:35 グループ内意見発表しながら発表用に分類していく。
 14:35～15:05 議論しながらグループの意見まとめ作業。
 15:05～15:30 グループ発表 **(別紙3のイメージ)**
 ((各グループ3分+入替1分) × 6 = 24分)
- ・各グループの机には、次のものが用意されている。
 模造紙 3枚(意見を書いた付箋を貼る、下書き、発表用などの用途に)
 付箋(自分の意見を書いて模造紙に貼り付ける。)
 ボールペン、マジックペン、辻堂地区防災マップ(2部)

4 委員の主な役割分担(敬称略)

会場準備	全員(委員集合 12時00分)			
駐輪場(各部会1名) 13:00～13:30	秋葉	堀川	大橋	
受付(各部会1名) 13:00～13:30	小川 (参加者割振)	和田	山下	
司会進行	久保田			
開会	司会			
主催者あいさつ	尾崎			
【第1部】辻堂まちづくり会議の取組				
取組の説明	伊藤			
社会貢献活動報告	防災学生	広報学生		

パネル	別紙1、2参照
【第2部】「辻堂の道」について	
グループ	別紙2参照
閉会あいさつ	秋山
片付け、掃除	全員
マイクランナー その他雑務	松本、新倉、片山、古河

5 周知方法

- ・広報ふじさわ12月25日号にあわせて全戸配布済
- ・辻堂ドットコム
- ・地域団体へ出席を依頼する。
- ・委員による声掛け
- ・市HPへの掲載
- ・LINEセグメント配信

6 参加申込

(1) 申込方法

- ・メール、電話、Faxのいずれか
電話 0466-34-8661
Fax 0466-34-4187
Email fj-tsuji-c@city.fujisawa.lg.jp
- ・名前、年齢、住所、電話番号をお知らせいただく。

(2) 受付開始

1月10日(水)～

(3) 手話が必要な方

1月19日(金)までにお申込み

(4) 保育が必要な方

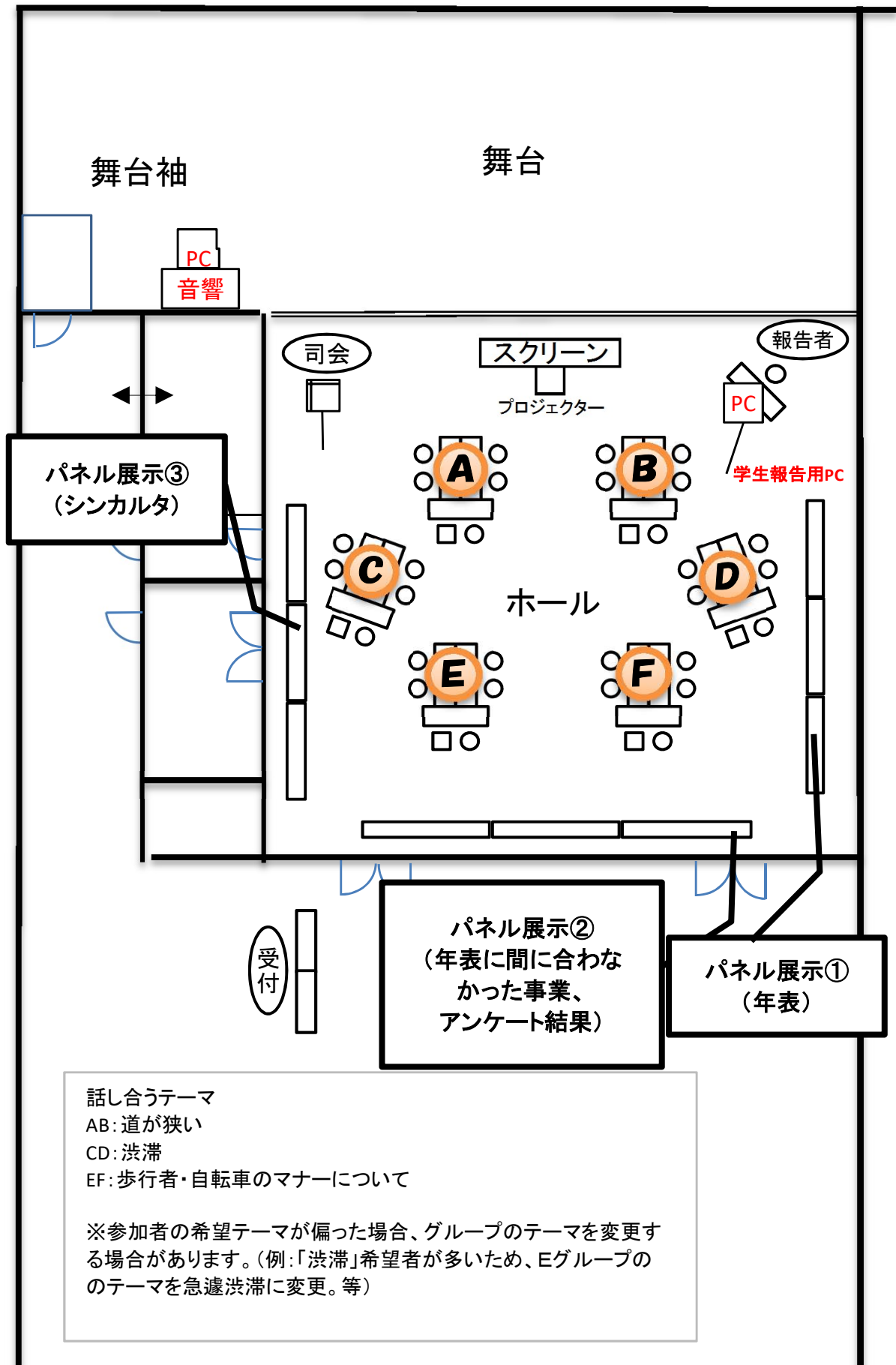
- ・1歳6か月～未就学児が対象
- ・5人まで受入れ可(先着順5人まで)
- ・1月19日(金)までにお申込み

7 その他

- ・参加者アンケートを実施する。
- ・参加者には、記念品(ロゴシール、缶バッジ)をお渡しする。
- ・委員は、ユニホームのポロシャツを着用し、名札を身につける。

以 上

別紙1 会場レイアウトイメージ



別紙2 委員グループ

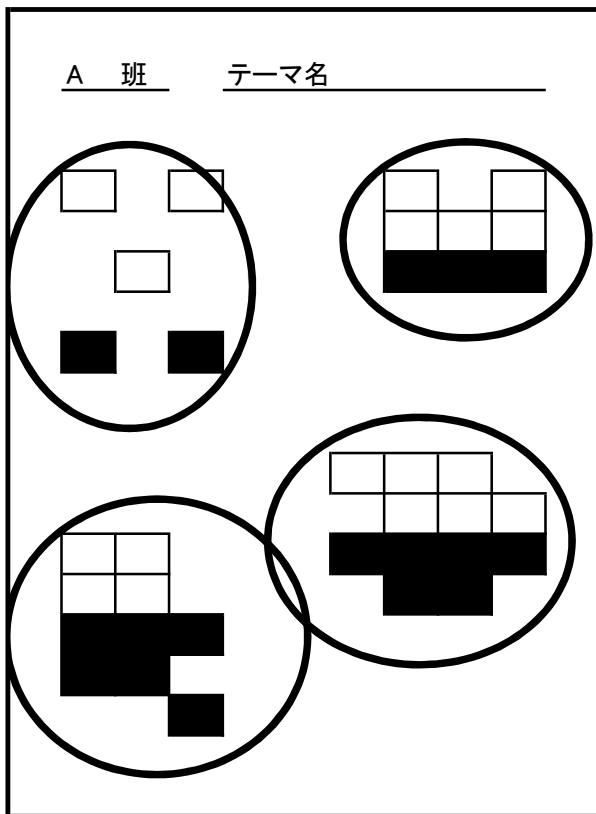
★・・・ファシリテーター（話し合いを円滑に進める役割。一般参加の方がたくさん話せるように！）

書・・・書記（発表用の模造紙に意見をまとめていく作業者です。）

パ・・・パネル展示説明者（パネルを案内していく担当です。2名程度で★・書と重複可）

氏名	グループ	テーマ	部会	委員会	団体名又は公募
秋山 正行	A★	道が狭い	辻堂交流	広報	公募
				—	
				—	
				—	
				—	
吉田 秀樹	B★	道が狭い	辻堂交流	—	公募
				—	
				—	
				—	
				—	
尾崎 文彦	C★	渋滞	—	広報	公募
				—	
				—	
				—	
				—	
小川 雄二郎	D★	渋滞	くらし安心・安全	広報	辻堂地区防災協議会
				—	
				—	
				—	
				—	
伊藤 和子	E★	歩行者・自転車のマナー	福祉	広報	辻堂公民館評議員会
				—	
				—	
				—	
				—	
久保田 恵	F★	歩行者・自転車のマナー	辻堂交流	広報	公募
				—	
				—	
				—	
				—	

別紙3 発表イメージ



最低限はここまで仕上げる。

...問題点の意見を書いた付箋(黄色)

...こうなったらいいな を書いた付箋(ピンク)

意見を書いてもらった付箋を模造紙に貼っていく。

大まかな種別毎にグループ分けしていく。

A 班 テーマ名 _____
問題点
<ul style="list-style-type: none"> ・○○○○ ・○○○○ ・○○○○
改善案、解決策など (こうなったらいいな)
<ul style="list-style-type: none"> ・○○○○ ・○○○○ ・○○○○

時間的余裕があればこのように仕上げる。
 ただし、メインは発表ではなく課題に対する意見の吸い上げなので、凝った作りにして時間をかけないこと。

テーマ「地域活性化に向けた新たな取り組みについて」
(若者が積極的に参加できる仕組みづくり)
湘南大庭・湘南台・鶴沼・藤沢 グループ①

【参加者】

- 藤 沢 市 : 鈴木市長・川口部長 (市民自治部)・堀井補佐 (市民自治推進課)・インターン学生
- 湘南大庭地区 : 波多野副議長・菅野委員・矢内センター長
- 湘南台地区 : 河合議長・中原副議長・岩田主幹
- 鶴沼地区 : 長瀬議長・渡邊副議長・山口センター長
- 藤沢地区 : 廣瀬議長・安岡委員・米井委員・井出館長

【議事要旨】

- ・高齡化が湘南大庭は著しい。市民同士が交流できるようゴルフコンペなど企画したらどうか。年齢層も若くても40代がメインになる。また、20年前のかるたがあるので、新しくつくりなおすのはどうかと考えている。若い感性を取り入れた新しいかるたを作りたい。来年度かるたづくりを行っていく予定。(湘南大庭)
- ・50代より若い人がいない。本町小おやじの会などもあるが、地域と学校を、また、地域と子育て世代をつなぐ接点が見つからない。来るもの拒まずだが、追うことができない。いいアプローチ方法を探したい。30代は一人しかいない。SNSを見れば、若い世代は多くいるが、郷土づくり推進会議に、何か面白いことがあるのか見えにくい現状。もっと面白いと思うことを発信していけたら、興味がある人が集まってくると思う。実際にはまだできていないが。(藤沢)
- ・湘南台は地区に大学が多くある。慶応大学が積極的に協力してくれており、多摩大も昔から協力してくれている。ごみ拾いなども大学生がやってくれる。課題として、今は積極的な学生がいるが、継続させていかれるかがポイントだと思う。大学生は4年間しかない。大学との交流が大切なのかと思う。大学生も参加するメリットを与えられるように考えていきたい。アートスクエア、七夕まつりなども学生が動いてくれている。子育て応援メッセも、慶応の学生が実行委員に入っている。(湘南台)
- ・鶴沼は認知症対策をやっている。今後、タウンミーティングをやってみよう

と考えている。鵜沼地区は広く、地区が違っていると交流がない。地区を超えて、お祭りができたらいいとも思う。今年度、鵜沼海岸まつりも開催した。このお祭りが若い人たちの交流のきっかけになればと考えて実施した。若い人たちとの交流はやはり難しい。タウンミーティングはよい手法だと思うが、やはり継続が課題になる。タウンミーティングから、次へどうつないでいくかが課題である。(鵜沼)

- ・藤沢地区で言えば、昔は若い人が多く、商業地だったと思う。藤沢市は、若い人が流入してきている現状がある。まずは街に魅力を感じてもらい、愛着を持ってもらい、まちづくりに参画してもらうような仕組みづくりは常に考えているが、やはり地区の人たちのアプローチが大切だと思う。おやじの会の人たちも、今はすごく盛り上がっているように感じている。今後広めていくためには、同じメンバーだけだとダメだと思う。やはり街に愛着を持って、子どもたちにつなげていくことから始まるのではないかと思う(市長)
- ・愛着を持って生活することについて、湘南台ファンタジアを見て思ったが、子どもたちの出し物を、親が見に行き、写真を撮る。そのような些細なことが、きっかけになればとは思っている。(インターン学生)
- ・若手を巻き込んで、継続していくことについて若い世代に直接アプローチするよりは、50代が中心ならば、まずは40代へアプローチ、次に30代へアプローチ。そのような形で進んでいけたらと思う。(湘南大庭)
- ・藤沢市に引っ越ししてきて、タウンミーティングに初めて参加した人がいた。その人に再度連絡する手段がなく、悔しい思いをしたことがある。(鵜沼)若い人がやっているイベントなどを発信していく仕組みづくり。センターの貸室を発展させて、予約がなくてもちょっと使える場所があるといいと思う。オープンに活動できる場所。(鵜沼)
- ・センターのロビーが広い。マイミライNEXTがコーヒーを出してくれて、ふらっと高齢者の方などがきて、自由に話したり、スマホの使い方を聞いたり、福祉施設のパンが売られていたりしている。(湘南大庭)
- ・興味がある若者は勝手にくる。潜在的に興味を持っている人をどうやって引き込んでいるか?(藤沢)

- ・「自分の住んでいる地区に馴染めない。このまちをどうしたいか」というタウンミーティングにした。それに興味がある人が来たのだと思う。ある程度テーマを決めて、実施するのがよいのかもしれない。適切なコーディネートができる人材も必要になってくる。ボランティアなどを通して知り合った人たちの連絡先を交換しておいて、そのメンバーを通して活動していけると広がると思う。それぞれいろいろな団体がそれぞれ活動していて、他の団体が何をしているかわからない。そのような状況だとつながらないと思う。(鶴沼)
- ・つながりづくりが重要だと思う。タウンニュースは結構読む人が多いので、そこに売り込むのはどうか。タウンニュース見てきましたという人が多いと思う。インスタなども使っている。(湘南大庭)
- ・チームFUJISAWA2020の人たちは、オリンピックは無観客だったが、できることを考えてやってくれた。プラットフォームがうまくでき、それが機能すればよくなっていくと思う。公共施設が手続きの場所から交流する場になるようにしていきたい。手続きの用がなくても、人々がくる場所になっていけば。(市長)
- ・駅地下にイルミネーションをしてみたい。「こんなまちになってほしい」という思いを駅地下に掲示してみたりしてみたい。地下通路だけではなく、駅構内にもクリスマスツリーを設置していて、そのオーナメント作りを学校などをお願いしている。ツリーの設置も子どもたちをお願いしている。毎年かならず参加してくれている人たちがいる。子どもたちに依頼して色々やってきたことで、そのやっている子どもたちが大きくなり、それでも連携はなくなり、大人になっても地域活動に参加してくれている。(湘南台)
- ・郷土づくり推進会議を知らない人が多いと思う。もっと知ってもらうこと、公募で委員さんを集めることでよくなるのではないかと思う。(湘南大庭)
- ・郷土づくり推進会議に来てもらうのはハードルが高いと思う。まずは、イベントに興味をもってもらい、そこからスタートするのがいいと思う(湘南台)
- ・学生だと卒業するといなくなってしまうので、下の学年を連れてきてもらうようにしている。またイベントに参加した人たちを逃さず捕まえていくことが大切だと思う。(湘南台)

以 上

テーマ「地域活性化に向けた新たな取り組みについて」
(若者が積極的に参加できる仕組みづくり)
六会・片瀬・明治・遠藤・善行 グループ②

【参加者】

- 藤 沢 市 : 宮治副市長・日原参事(市民自治推進課)・貴田主幹(善行市民センター)・インターン学生
- 六会地区 : 佐藤議長・甲斐副議長・江添センター長
- 片瀬地区 : 畠山会長・甲斐副会長・幸田センター長
- 明治地区 : 三觜議長・小池部会長・戸塚センター長
- 遠藤地区 : 三田会長・伊澤副会長・若宮センター長
- 善行地区 : 渡邊議長・池田副議長・松森センター長

【議事要旨】

- ・全体集会で六会地区の西部地区でイベントがない。石川コミュニティセンターで夏休みに六会こどもフェスタを開催した。地域に声をかけ、若い親子づれやこどもを対象におまつりを開催し、100人以上の参加があった。準備期間が短く、地域の自治会と連携をとることが難しく、郷土づくりが主体として実施したが、来年度は近隣の自治会を連携して進めていきたい。(六会)
- ・協議会としている。将来の担い手の参加意識を持ってもらうため、先日、アンケートをふれあいまつりや地区レクリエーション(中止)などで実施し、今年度中にまとめて、来年度の地区集會に結果を発表し、検討していく予定。地形を考えると、片瀬地区は3つの地区に分かれる、観光主体の江の島。
※アンケートをあとでご覧していただき、アンケートに参加してほしい。
(片瀬)
- ・子育て世代への町内会への加入促進については、転入増となっているが、集合住宅などは自治町内会に入らない世帯が見受けられる。子育て世代をターゲットにした事業を実施、防災訓練の実施により若い世代に参加してもらい地域活動に興味をもってもらう、小中学生を対象に事業を実施し、その結果、町内会自治会の必要性を認識してもらい、加入率の向上を目指してもらおうとしている。こどもみまもり事業を積極的に実施したり、チャレンジ事業、青少年ふれあいネットワーク、青少年安全パトロール会議などによる安全マップの作成、パトロール、防災訓練などを実施し、興味をもってもらう。防災訓練では炊き出し訓練などを実施し興味を持ってもらっている。行事一覧

表を作成し、地域や小学校に配布し、未加入世帯に知ってもらう機会を作っている。(明治)

- ・S F Cの学生が積極的に地域活動にかかわってくれている。自発的に手伝ってくれる。中でも、こども食堂の計画に主体的にかかわってもらい、社体協のイベントの手伝いなど、楽しみながら手伝ってくれている。その姿を見ると、頑張ってきた方々も刺激を受けてさらに頑張ろうという気持ちになっている。地域に無関心だった方にも、大学生が起爆剤になるのではないかとありがたく思っている。(遠藤)
- ・公民館まつりでは中高生のボランティアがかなりいたが、コロナで途切れてしまった。今後再度つながりをもちたい。こども主体での事業を実施したいと思っている。小中学生に善行地区を知ってもらい、イベントを開催してもらいたいと思っている。広報力が足りないことが課題となっている。郷土づくり自体について地域に浸透していないことを実感している。まずは善行という街をしってもらおうと善行をPRするポスターを掲出し、マップも作り直した。広報についての勉強会にも参加した。坂のあるまちを知ってもらいたく看板を設置する。坂のイラストの缶バッジを作成したところ10種類10個ずつ用意したがあっという間になくなってしまった。健康づくりマップも改訂し、坂と絡めて善行を知ってもらおうと思っている。数年前に善行を知ってもらえるかるたを作成しており、そのかるたとマップを活用してこども企画事業を実施したい。また、12月9日にはかるた大会を実施する。今期取り組んできたことを1月に全体集会で発表していきたい。今いるメンバーに継続してもらいたいと思っている。(善行)
- ・六会もふるさとかるたを作った。学童などにも渡している。A4サイズのジャンボかるたを用意し、大会や体験大会を実施し、幼児、小学生が来て盛況だった。(六会)
- ・平成27年度にかるたをつくり、その後大会を実施していたが、コロナで中止となってしまった。コロナがあけて、改めて掘り起こしをやりようと思っている。(善行)
- ・町内会、自治会でもお正月のイベントに貸し出しをしたり、絵札はこどもが作り、読み札は地域の方が地域の魅力を詠んだ。上州かるたをめざしたい。(六会)

- 片瀬地区のアンケートは地元の方々にどうしたら片瀬の文化事業に参加してもらえるかのアンケート。おまつりが多い地域であり、そこに参加してもらうことで、こどもたちに郷土、地域の魅力を感じてもらい、次の世代に継承して行ってほしい。片瀬地区では、「片瀬ごま」を実施している。こまの魅力と歴史を感じ取ってもらっている。大山ごまと片瀬ごまの合戦などをしながら推進していきたい。アンケートから、根本的な課題を解決しないとイケないと考えている。防災訓練、海岸清掃、公民館まつり、パトロール、などがあるが、中でも、意見交換は最下位。楽しいイベントなら参加したいが、地域に興味ある方は、それが目的の防災訓練には参加率が高い。イベントの手伝いのみというのが非常に多い。楽しいことならその場限りで参加したいが、議論するなどの難しいものには、参加したいとならない。学校が太いパイプでつながって、我々と共有できることが必要。行政全体を巻き込んだ横のつながりが重要となる。郷土づくり推進会議が認知されていないわけではないことを、モチベーションにしてほしいと思う。(片瀬)
- 明治地区は郷土資料室がある。テーマとして3か月ごとに変え、一般住民に見てもらおう。こども対象に学校の歴史やおまつり、地区の仏像などの見学を行っている。明治地区は「小笠原東陽」という教育を築いた人がいる、そこで興味を持ってもらえんと思う。学校の教育の一環として、資料室に来てもらい、説明を聞いてもらうことをしている。今の世代の小中学校のこどもは昔の話をして、興味をもってもらえない。郷土室のメンバーも運営の仕方に、心痛めている。良いテーマ、やり方がないか常に考えている。(明治)
- 遠藤地区では、民生委員とSFCの学生寮ができたときにつながりができた。夏祭りで学生から持ち込み企画があり、つながりができた。こども食堂は学生が準備企画して、年間4回やってくれている。夏休みは学習ボランティアとして小中学生に勉強を教えたり、SFCに助けられている。小中学生をターゲットとして、広報部会でポスターコンクールを開催している。遠藤地区の絵をかいてもらい、夏休みの課題として出してもらい、審査し、公民館まつりで表彰している。それを観に親がやってくる。遠藤笹久保公園ができ、植栽ボランティアとして関わってくれている若い世代もいる。夏まつりでは町内会に未加入者のために、小中学校に手紙を出して周知し、それを機にお手伝いしてくれる人も出てきた。(遠藤)
- おまつりなどで人が集まりやすく、学生も手伝いをしてくれる。これについ

ては、どうやって連携するかが課題と思う。ポスターコンクールにより郷土づくりの存在感をしめす。認知度を高める工夫をいろいろしていただいている。ぜひ今後も共有してほしい。(市民自治推進課)

- ・片瀬地区は、イベントやおまつりをする場所が問題。また高齢化が深刻。どうやって人材を確保するか、非常に課題と認識している。若い人が少ないと、こどもも少ないため、イベントをやるにも参加者が少ない。八方塞がりの状況。(片瀬)
- ・この会議の存在や地域の取り組みを知ってもらうためには、とにかく市民センターに足を運んでもらうことが大切と考える。展示のテーマにこどもの作品を飾るのもよいのではないか。遠藤のポスターコンクールの話もあったが、こどもからの作品を展示して、それに順位をつけるのもよいのではないか。習い事の共有をセンターで行うのもよいと思う。とにかく若者が参画しやすい環境にするためには、手軽さが重要と考える。雰囲気づくりやオンラインを活用したりすることで若者が参加しやすい環境になると思う。(インターン学生)
- ・小さな部会の会議では、特定の方とはできるが、全員となると難しい。委員は年齢が上がっているためZOOMで会議ができるかという点も難しい。ただ、公募委員の若者は忙しく、直接参加できないため、会議にZOOMで参加いただいたこともある。ハイブリッドでもできると思っている。若者のために土曜日や平日の夜間に会議をするようにした。(六会)
- ・事例として、社協が主催した災害と福祉のワーキングでは、毎月夜間にやっているが、その中に子育ての方が毎回ZOOMで参加している。(片瀬)
- ・若い方の参加として、郷土づくり推進会議委員でどのくらいの若い方が、どれくらいの割合でいらっしゃるのか？(善行)
- ・40代～80代、多い層は60、70代。(六会)
- ・片瀬地区は、40代男性がひとりいる。小学生のお子さんもいる。50代、主に60代、70代。(片瀬)
- ・30代がおひとり、60代以上が中心。(明治)

- ・遠藤地区は、郷土づくり推進会議とまちづくりの協議体と一緒に。人数が多い。50名いる。40～90代。多い層は60代、70代。(遠藤)
- ・善行地区は、80代、40代がいる。荏原や地域包括からの方が40代、50代の方も数名。多い層は60代70代。世代をうまくつないでいかないといけないと思う。(善行)
- ・地域差がある。PTAから地域に参加したが、子育て、学校は人材育成には不十分。地域の学校とタッグを組んでいくのが必要だと思う。地域内の高校、大学との連携はうらやましい。(片瀬)
- ・アンケートについて、インターネットと紙の割合は？(宮治副市長)
- ・インターネットの回答が多い。(片瀬)
- ・少しずつデジタル化していくことが、若い人の参画につながるアイデアかと思う。メンバーが在住に限られているが、善行では在勤の方もいる。昼間そこで働いているかたも地域を作っているため、在勤、在学の方も参加してもらえたら若い世代に参加してもらえるのではないかと。(宮治副市長)

以 上

テーマ「地域活性化に向けた新たな取り組みについて」
(若者が積極的に参加できる仕組みづくり)
御所見・長後・辻堂・村岡 グループ③

【参加者】

- 藤沢市 : 和田副市長・森主幹（市民自治推進課）・谷村補佐（市民自治推進課）・インターン学生
- 御所見地区 : 荏田議長・角田副議長・須藤センター長
- 長後地区 : 井上議長・青木副議長・山中センター長
- 辻堂地区 : 尾崎会長・秋山副会長・横田センター長
- 村岡地区 : 大島委員・加瀬委員・饗庭館長

【議事要旨】

- ・結論を出すものではなく、多様な意見を各地区に持ち帰っていただければ。
(市民自治推進課)
- ・夏まつりについては、経験上今までで一番参加が多かった。太鼓なども若者がこんなにかいたのか、というくらい大きく盛り上がった。中学生やボランティア、老若男女が参加した。他地区への質問として、考え、行動もしているが、どうアピールしているのか。当てはまる場所を知りたい。SNSなどもページを作成してあるのか。若者はどういう情報に興味を持ってもらえるのか。(御所見)
- ・辻堂地区では青少年会館がある。大学もある。大学はその学問に興味がある学生が集まっており、環境や街デザインなども含まれる。地域とは病院、会社、大学、幼稚園など全て対象。公民館祭では外部団体に呼びかけ、子供と事業、青少年会館では子どもが防災を学べる場所を作り、子供との接点を多く作った。心の中に入っていく場面を作った。(辻堂)
- ・アピールはどうしたのか？(御所見)
- ・大学は授業の中に学生と地域がつながる機会をアプローチして作った。それ以外はこちらから積極的にアプローチをした(辻堂)
- ・中学生はどうしたのか。中学校に社会福祉の模擬店を出す中で、自分達の取り組みを発表してもらい、今回は男子も来ていて、楽しそうだった(市民自

治推進課)

- 学校には郷土から働きかけたのか？（長後）
- そのとおり。私は村岡出身だが、御所見は地域愛が強い。御所見は高齢化が進んでいるが、そういった風土もあったのかと気づいた。（御所見）
- 悩ましいところで長後地区は高齢化の地域 ボランティアを「メインテーマでつながろう長後」としている。人的交流もあるが、ボランティアという概念を、エリアの人に対して、団体や活動をどうやって知ってもらえるか。また新たな参加者を募る方法を悩んでいる。前年の交流会でチームFUJISAWA 2020の話聞き、新しい可能性を感じた。11月25日に時事問題講演会で取り扱う。今までは地震などのテーマを扱っていた。活動している団体の事例発表や、ボランティアまつりも開催した。まずは興味を持ってもらうところをスタートにして、いずれ参加をしてもらう仕組み、という形にしていた。時間はかかると思うが、一人でも多くの参加につなげたいと考えている（長後）
- 若者はどうやっているか。（辻堂）
- 藤沢総合高校は、単位としてボランティア参加してくれている。仕込みでなく、自分達が参加するように仕向けたい 日本的なボランティアという概念も変えていきたい。気持ちが広がっていくことが地域交流になる。ボランティアが硬いイメージがある。団体にも固執する傾向がある。メンバーの固定化を打破したい。その一歩を踏み出す。（長後）
- 色々団体があるが、自発的な団体なのか。（村岡）
- 色々ある。行政や郷土づくりが仕向けるものもある。地域の会議があり必要性が出たもの、自然発生的に小さくやっているものもある。（長後）
- お手元の資料に特徴を書いたが、御所見地区は農業地域、調整区域。住んでいる方は高齢者がほとんど。林業農業に従事する方が多く後継者不足。若い方が増えてはいるが、共稼ぎが多い。そうするとボランティアの時間が取れないため、高齢者が中心となる。郷土でも花の植栽などが中心となっている。市の中では最北西。藤沢はいいところとよく言われるが、御所見はまた別の

特徴があると思っている。(御所見)

- 若者、中学生高校生は部活に専念しており、手が届かない。高校の単位の話もあったが、大学生は50単位が地域ボランティアでもらえる。授業の一環としている。ボランティア概念、2単位と50単位では大きく違う。社会への受け入れられ方も違う。大学生は社会人への準備という意味もある。印象的なのは、単位が終わった後もつづけたい、という意見があった。これは郷土愛なのか。若者へ、我々が興味を持たないといけない。郷土の委員は高校生以上となっている。高校生卒なども作れないか。小学生会議体なども意見が出ている。高齢の方も若いアイデアは出てくる。沿岸部は防災が深刻。課題も様々。若い人同士の意見交換、頻繁な交流会などがあるといいと思う。辻堂地区は記載の通り、行間には積極的な歩み寄り、大学への参加、小学生授業への参加をしている地域では回覧板の世代よりも、若い人の方が郷土に馴染みがあるかもしれない。(辻堂)
- アピールについて。私も地域の自治会常任委員をしていた。面白いから継続している。学生からスポーツなどやってきて、今も趣味にしている感覚と同じ。地域には慶応もある。単位ではなくとも、積極的にアピールして地域を知ってもらう。まずは楽しんでもらう、その方法を見つけるのがアピールになるかなと感じた。(御所見)
- 交流会をレディオ湘南でやった。控室で辻堂は学校から駅までたむろする場所がなく、そのまま電車に乗るのでふるさと感がないと言われたのが6年前。そこで、PRではなく同化していこうと思った。将来、辻堂に帰ってきて、起業しようと思ってもらえるよう、そういった場所を見つけ、発想拠点が大事だと思った。(辻堂)
- チームFUJISAWA2020も湘南工科大でやっている。若い世代にアピールする。やり方によっては目線が異なる。若い世代が持っている興味を見つけて発展させる方法を見つけない。インターナショナルスクールの幼稚園の子が果樹園に来て、半日遊んでいた。先生、外国人などの子供に対する対応が、参考になる。幼稚園でも、指示はするが、実践を重んじる。社会に対する視野や教育の違いは大きく影響すると思う。(長後)
- 辻堂地区も6割が移住者。挨拶するしないなど、住みやすいとは何か考える必要はある。辻堂は、公園がある、海がある、静か、景色がいいなどのワードは

出てくるが、人が出てこない。歴史があるわけではなく、人の繋がり、ということに謳っている。最近、交流が生まれてきた。しかし理由はわからない。最初は、古い風習に習ってもらいやり方をしたら、失敗した。次に古い人、新しい人が交差する、という形にした。そうしたら風向きが変わった。(辻堂)

- 友人に辻堂在住者がいる。辻堂は大好き。案内をしてもらったが、その良さを色々語ってもらった。散歩の中で声をたくさんかけられた。そこでいい街だなと感じた。50単位という話も驚いたが、協力する学生はいるのではと思った。単位数の違いの話もあったが、果たして50単位はボランティアと言えるのか。私はガールスカウトをずっとしている。単位よりも資格などもいいと思った。(インターン学生)
- 辻堂地区の公民館祭では、福祉バザーで大学生に来てもらった。地方出身者だったが、活動のことを知り、地域に戻ったら聞いてみたい、と話していた。都市デザインのゼミでフラッグを作って、街路に展示した。学生の発想も素晴らしい。(辻堂)
- 単位について訂正します。50単位でなく、50時間の活動で2単位だった。(辻堂)
- 村岡地区は若者が多い地区ではある。なぜそうなったのか。住宅が増え、活気がある。若い家族が増えると自治会に入らないという課題もある。村岡は行事をたくさんやっている。明日からふれあい祭、2月には防災フェアなど。イベントには子供連れなどもたくさん参加してくれる。自治会にすぐ結びつくわけではないが、頑張っている。しかし、理想通りにはいかない。若者を呼び込む事例として、10年ぶりに全員にアンケートを実施した。過去には紙で実施したが、今回はWEBでの回答としたら、回収率が19%まで上がった。以前は2、3%。結果は2,000件以上あるので分析中。挨拶運動もしており、アンケートでも挨拶をされて嬉しかった、という意見もあり、効果が見えた。若者には興味を持ってもらい、関心のきっかけのため、情報発信の工夫が必要だと思っている。(村岡)
- デジタルの活用も若い方の参加促進につながると思う。(市民自治推進課)
- 紙だと回答が世帯で一人になる。2次元コードをつけた。自分達でWEBを用意した。分析に長けている方もいる。(村岡)

- ・躊躇しない姿勢が大事だと思う。会全体に浸透していると思い、見習いたい
回覧板はスマホ回覧をしたいと考えている。紙は必要だが、子供にはスマホ回覧がいいと思う。子供からイベント情報を親に言ってもらえるといいと思う。
(辻堂)
- ・郷土メンバーが高校生なのか？（長後）
- ・要綱ではそうなっている。郷土づくりでぜひ募集したい。若者のことを想像だけではなく、直接聞きたい。(辻堂)
- ・各地区の取り組みは、心強く思う。ネットでは自治会など、人口は増えているが、悲観的な言われ方をしている。皆様は藤沢を象徴している。学生は面白い取組をされている。地区ごとに状況は違うが、参考になることもあると思う。御所見の小学生などの対応があると、親の参加も見込まれる。面白いアイデアをこれからも取り入れてほしい。(和田副市長)
- ・まとめると、御所見は農業地区で、郷土という景色がある。こんなに子供たちがいたのか、という声が印象に残った。これは子供とどう繋がろうか、と苦労した結果だと思う。長後は古い街と開発がある。村岡は新駅があり、古い街と都市化が進んで地区である。例えば、御所見はお祭りで中学生に司会や当番をやってもらった。長後は、地域団体や様々な法人との活動、アイデアを積極的に取り込み、他団体がどういうニーズで動いているかというところに耳を傾けたことが、お祭りとして結果に出ていた。チームFUJISAWA2020との連携も進めた。村岡では若い人の意見を積極的に、躊躇せず、取り入れる姿勢が印象的だった。関心を持ってもらえる、積極的に足を運べるなどのニーズを引き出し、ボランティア概念の再検討、つながりを求めている。地域ごとに生活は違うが、地域性をお互いが知り、地域ごと頻繁な交流会が必要と感じた。
(辻堂)

以 上

辻堂地区 復興まちづくりイメージトレーニング ～自分の家、地域が被災したら、 どうするかを考える～

2022年(令和4年)12月の辻堂まちづくり会議にてご案内した「災害復興に向けた事前取組について」に引き続き、復興まちづくりイメージトレーニングを通じて、実際に災害が起こった際に、どのように生活を再建するか、市街地を復興させるかを一緒に考えていただくために企画したものです。

とき 2024年(令和6年)3月16日(土曜日) 午前9時30分～
ところ 辻堂市民センター2階第二談話室

復興事前準備の位置付け

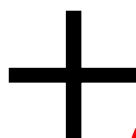
防災対策

- ・防潮堤の整備
- ・建物の耐震化、不燃化 など

被害を完全に防ぐことは
不可能

減災対策

- ・避難施設・避難路の整備
- ・ハザードマップの活用
- ・避難訓練の実施 など



事前復興対策

- ・津波浸水想定区域から事前に区域外へ移転 など

復興事前準備※

大災害においても迅速な復興を
総合的に実施するために備える。
・復興まちづくりイメージトレーニング
など

※ 復興事前準備とは・・・平時から災害が発生した際のことを想定し、どのような被害が発生しても対応できるよう、復興に資するソフト的対策を事前に準備しておくこと。

(事務担当)

計画建築部都市計画課

0466-50-3537(直通)

♪ 皆さんと一緒に考えませんか♪



2024年1月25日

令和5年度「藤沢市未来共創会議」の開催について

企画政策部企画政策課

1 藤沢市未来共創会議とは

おおむね20年後の「ありたい未来の地域の姿」を、地域に住まう方・地域で働く方・地域で学ぶ方など、その地域に関わりがある多様な参加者が集まって議論し、その実現のために何ができるかをともに考える会議です。これまで、令和3年度は村岡地区、令和4年度は遠藤・御所見地区でそれぞれ開催しました。令和5年度は、辻堂・明治地区で開催したいと考えています。会議を通じて出されたアイデアは、来年度中に改定を予定する「藤沢市市政運営の総合指針」へ反映していきます。



▲昨年度の様子（遠藤・御所見地区）

2 開催日とテーマ

1日目：3月9日（土）「地域の魅力や課題を共有する」

2日目：3月16日（土）「ビジョンを共創する」

3日目：3月23日（土）「活動を企画する」

時間は各日午後1時30分から午後4時30分までを予定しています。

また、3日で1セットの構成です。

3 開催場所

辻堂地区・明治地区の公共施設や会議室等（調整中）

4 募集人数

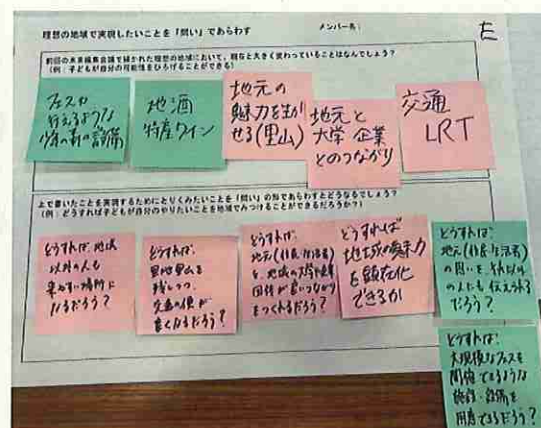
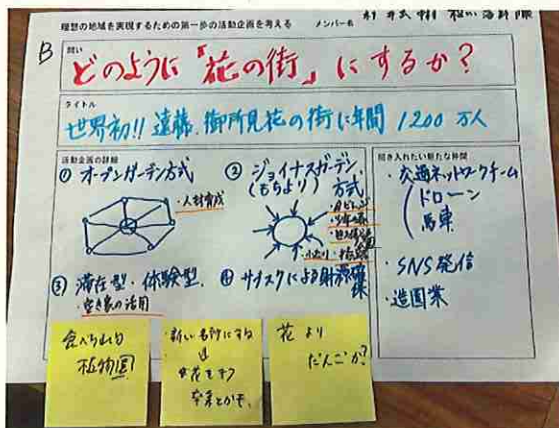
合計36人程度

募集を開始する時点で改めてお知らせします。

5 辻堂まちづくり会議の皆様へお願いしたいこと

ぜひ、皆様にも未来共創会議へご参加いただけますと幸いです。また、地域の中で未来共創会議にご参加いただける方のご紹介や、このような方を呼んでみてはどうか、といったご提案についても、ご協力いただけますと幸いです。

6 昨年度の成果物（一部）



以上

(事務担当) 総務・特定課題担当
 電話：0466-50-3502 FAX：0466-50-8436
 メール：fj-kikaku@city.fujisawa.lg.jp



令和5年度辻堂地区防災講演会

入場無料

誰一人取り残さない防災を目指して

災害時、自分には何ができるのか、一緒に考えてみませんか？

自分やお隣さんは
避難できるかな？



自治会町内会で
何ができるだろう？



講師： たつき しげお
立木 茂雄 氏

同志社大学社会学部教授 Ph.D.(トロント大学)

日時 **2024年3月2日 (土)**
午後**2時**～**4時** (開場**1時30分**)

会場 **辻堂市民センター3階ホール (定員90人、申込先着順)**
同時オンライン開催(定員なし)

※お車でのご来場はご遠慮ください。

申込 **2月8日 (木) から28日 (水) までにお申し込みください。**

会場申込

電子申請もしくは電話、来庁にて承ります。
電子申請は、下の2次元コードからお申し込みください。(定員90人)
※定員になり次第受付を終了いたします。



オンライン申込

電子申請にて承ります。
電子申請は、下の2次元コードからお申し込みください。
※定員はありません。



申込み・お問い合わせ

辻堂市民センター 地域づくり担当

電話 0466-34-8661

※電話、来庁は平日午前8時30分～午後5時



昨年の防災講演会の様子もHPで公開しています。

詳しくは、『辻堂地区防災講演会』と検索！！

共催

辻堂地区防災協議会 辻堂まちづくり会議 辻堂地区自治会長・町内会長連絡協議会
辻堂地区社会福祉協議会 辻堂東・西地区民生委員児童委員協議会

辻堂まちづくり会議 委員募集



- 募集期間 2024年(令和6年)
1月25日(木) から 2月16日(金) まで

- 「辻堂まちづくり会議」って何？

辻堂地区郷土づくり推進会議（通称：辻堂まちづくり会議）は、辻堂地区の自治会、福祉、防災、防犯などの地域団体から推薦された委員と公募の委員で構成され、辻堂に暮らす人たちがより安心安全に暮らせるまちをめざして、人と人とのふれあいを大切にまちの様々な課題に取り組んでいます。

活動内容は、委員全体の会議と部会を毎月実施しているほか、全体集会の開催、辻堂の海を守ろう！事業、障がい者理解促進事業、自転車マナーアップ研修会などを実施しています。

- 辻堂まちづくり会議の取り組み事例

辻堂の海を守ろう！事業



子どもたちが楽しみながらSDGsについて学べるイベントを開催しました。

認知症フレンドリーキッズ授業



認知症の人が見ている世界を再現したバーチャルリアリティー体験(VR)の授業を、子どもたちに実施しました。

湘南辻堂地下道3車線化




辻堂まちづくり会議から藤沢市に提案を行い、渋滞緩和のための湘南辻堂地下道の交差点の3車線化を実現しました。

募集の詳細は裏面をご覧ください！

みなさんのご応募をお待ちしています！

<募集の詳細>

- 1 募集人数 若干名(応募書類等による選考)
- 2 任 期 2024年(令和6年)4月1日から2026年(令和8年)3月31日まで
- 3 応募資格 次のいずれにも該当する方。
(1) 辻堂地区内に在住、在勤、在学又は地区で活動を行っている方
(2) 辻堂市民センター等で開催予定のまちづくり推進会議に出席が可能な方
(3) 本市の常勤の特別職・職員及び議員でない方
- 4 委員の役割 (1) 地域の意見集約、地域の課題解決に向けた方向性を検討する。
(2) (1)の検討結果に基づき、市長に対し提案を行うとともに、必要な意見若しくは要望の提出、施策の提言を行う。
(3) 辻堂地区の特性を生かした事業を企画し、実施する。
- 5 身分及び報酬 藤沢市長から委嘱を受けるボランティア(無報酬)。
- 6 応募方法 応募用紙に必要事項を記入し、持参、郵送、FAX、電子メールのいずれかの方法により、辻堂市民センター地域担当まで、期間内に提出してください。
(※応募用紙は辻堂市民センターにあります。また市のホームページからダウンロードできます。)
また、「e-KANAGAWA 藤沢市電子申請システム」からオンラインでも申請ができます。右記二次元バーコードを読み込み、申請ページから応募ください。
- 7 応募期間 2024年(令和6年)1月25日(木)から2月16日(金)まで ※期間内必着
- 8 選考及び結果通知 公募委員の選考は、公募委員選考委員会において、選考委員による面談(提出時または後日実施)及び書面審査で行い、総合的に判断して決定します。選考結果は、3月中に応募者全員に通知いたします。
なお、記載された個人情報、選考にかかる手続き以外には使用しません。
- 9 提出先・お問い合わせ
〒251-0046
藤沢市辻堂西海岸2-1-17 辻堂市民センター地域づくり担当
TEL0466-34-8661 FAX0466-34-4187
E-mail fj-tsuji-c@city.fujisawa.lg.jp
土日祝日を除く、午前8時30分から午後5時まで
(正午から午後1時までの昼休みを除く)



担当教員：

総合デザイン学科
デザインプロダクトコース
教授 禹 在勇
教授 堀川 将幸
助教 宮田 佳美



産学官連携による地域デザインの取組

大学生による提案・研究発表会のお知らせ

今年度は、地域の課題として「藤沢市の2040年を考える」というテーマで、湘南工科大学工学部の総合デザイン学科プロダクトデザインコースの3年生により、地域デザイン観点から解決に向けて取り組んで参りました。

このたび、地域の未来のために、学生らの独自の発想や視点から取り組んだ地域デザイン（課題解決）に関する研究成果の発表会を開催します。

本研究発表会に、自治体・企業の皆様も、是非ともご参加ください。

記

日時：2024年01月30日（火） 13:00 ～

場所：湘南工科大学 本館（H401教室）

* 駐車場を利用する場合は、正門の守衛室で、研究発表会に参加のため、という旨をお伝えください。

研究テーマ：「2040年の藤沢市を考える」

- 1) 安全な暮らしを守る
→ A グループ
- 2) 文化・スポーツを盛んにする
→ B グループ
- 3) 自然を守り豊かな環境をつくる
→ C グループ
- 4) 子どもたちを守り育む
→ D グループ
- 5) 市民自治・地域づくりを進める
→ E グループ

* なお、各グループの発表時間は、発表：10分、質疑応答：5分とします。
レジュメは、会場で配布します。